

表 2 信頼性とOR

種目	研究内容
A	システム解析, コヒーレント系
B	セミマルコフ論の応用 (PMの理論, 保全のOR), 再生理論とマイナー則待ち行列の応用(待機冗長系)
C	IFR, IFRA
D	ワイブル分布, 指数分布, データ収集システム
E	FMEA, FTA, FEM

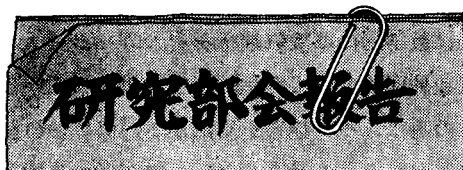
1960年代の後半から1970年代にかけては信頼性の中の統計的手法の研究も多く,たとえば, Technometricsなどに N. Mann などを中心とする論文を数多く見かけることができる。

信頼性の中のORを整理すると表2のようにまとめられる。

これを見れば,信頼性の中において,少なくとも理論面においてはORは大きな役割を果たしてきたといえよう。

## まとめ

本稿では,ORがTQC,品質保証ならびに信頼性に,いかなる関連をもつかについて考察しながら説明を行ってきた。そしてTQCの中で重要な品質保証をレベルアップするには,品質保証の中に信頼性を導入することが大切であることを述べ,さらに,この信頼性の理論面をORが基礎づくりを行なっていることを説明した。品質保証の体系化にORがいかなる役割を果たすべきかを,今後,十分に検討される粗材として本稿をお読みいただければ幸いである。



## ●経営コンサルタント●

- 第14回 日時:5月9日(土) 14:00~17:00 場所:東京都労務福祉会館 テーマ:インプット志向の古典孫子の兵法とこれからの経営のOR

「インプットなければアウトプットなし」,「蔣かぬ種は生えぬ」であるこの世の中における人間の営みを戦争・政治・外交・経営等において考えるために,「孫子」,マキャベリーの「君主論」,仏のカリエールの「外交談判法」,ブライゼンのクラウゼヴィッツの「戦争論」等の所説を比較検討しながら,計算に始まり情報処理を終篇とする,ORの参考書である「孫子」を総論的に話し合った。次回6月6日は「孫子」の各論を経営の面から検討の予定。

## ●日本における社会システム分析●

- 第12回 日時:5月30日(土) 14:00~17:00 場所:日本能率協会会議室 出席者:11名 議題:電源立地の諸問題;深谷光世(東京電力)

現在,地域問題として最も脚光をあびているのが電源立地の問題であり,これを社会システムの見地から分析した。電源立地に関する諸問題を明らかにすることによって,日本の社会を動かしているいろいろな要因とその

からみ合い,さらにまた社会をシステムとしてみた場合の法(成文)の意義や,行政の役割などが浮きぼりにされた。またこのような地域問題解決のための第三者的立場としての学会の役割についても討議された。

- 第13回 日時:6月27日(土) 14:00~17:00 場所:日本能率協会会議室 出席者:10名 議題:職商い国家日本の命運(第1回);井上喜代重

今後の日本はいかにあるべきか,きわめて重大な関心のよせられているところであろう。これを Contingency Analysis の見地から時系列としてとらえようとしたものである。今回は第1回として,日本の経営の本質を職能集団原理として,歴史的な実証分析を行なったものであり,今後のことを考える上にきわめて示唆に富む成果が得られた。第2回は秋になる予定。

### 高齢化社会への提言(高齢者活性化のための処方箋)

日本における社会システム分析研究部会成果要約第1号として,小冊子にまとめましたので,希望者の方はお申越してください(送料170円,申込先,〒102 東京都千代田区一番町22-1,一番町セントラルビル308,小野勝章事務所内 小島光造)

高齢化問題は好むと好まざるにかかわらず,否応なしに深刻化しております。このまま進めば10年先以降日本は破局的な事態を迎えるのではないかとの危機感をもって,研究成果をまとめたものです。青壮年層の方はその事態に対しいかに生き残るか,今から準備しておく必要がありますが,本書はその本質を考える上に絶好の参考になることと思います。